

演習: 模擬記者会見テーマNO. 1

生活保護費の返還金を、担当職員が2年間にわたって300万円を着服していた…。

生活保護を担当する生活福祉課の50代の男性職員が、生活保護受給者からの返還金を着服していたことが判明した。生活保護費の支給額は、国の定める最低生活費から本人の給与や年金収入などを除いた金額となるが、収入申告がなく、過払い状態のまま保護費が支給されていたことが判明した場合には、遡って支給した保護費の返還を求めることになる。

この職員は、自分の担当である被保護者数人から毎月返還金を現金で受領していたが、会計への収入の手続きをせずにこれを着服。被保護者本人には、その都度、偽造した領収書を渡していた。なかには、不当に高額な返還金を偽って要求され、最低生活費の約4分の1の水準で生活を強いられていたケースもあった。そのような不当な高額な返還金を要求されていた被保護者の一人Aさん(68歳、女性)が、8月27日(月)午後、過度な節約のため水分を取らずに自宅で脱水症状を起こして転倒、救急搬送された。その折に、病院職員から事情を聴かれてAさんが話したことから、8月28日(火)、病院側から役所に連絡があり、この不祥事が判明した。

被保護者Aさんは搬送されてきた翌日の8月28日(火)には回復したものの、転倒の際に頭を打っており、医師からは脳に後遺症が残ると言われている。

事態の発覚後、担当課では直ちに8月28日(火)から8月30日(木)の3日間にわたって、この職員が担当する被保護者全員(54名)に聞き取り調査を行ったところ、2年間で10人から約300万円を返還金として受領、着服していたことが判明した。この結果に基づいて、30日(木)の夕刻、本人に確かめたところ、この事実を認めた。着服した金は遊興費に使い、ほとんど残っていないという。この職員は、ときどき無断欠勤するなど勤務態度に問題があり、この職務の前に勤務していた別の課でも、住民とトラブルを起こしていたことがあった。

事態を重く見た役所は、本日8月31日(金)午後2時から、緊急記者会見を実施することとなった。

課題. 記者からの想定質問と応答(Q&A)を、各自で作成してください。なお、誰でも応答に困窮しない質問(例えば「5W1H」についての質問など)は省略して、応答に困窮するような厳しい内容のQとAを作成してください(最低15問以上)。

・記者会見出席者は、次の4名です。

- ①福祉部長、②生活福祉課長、③生活福祉課長補佐 ④司会(広報課長)

演習: 模擬記者会見テーマ NO. 2

「庁舎内に時限爆弾を仕掛けた。爆発時刻は午後2時」という脅迫状が・・・」

午前10時ごろ、県庁宛てに届いた郵便物の振り分けをしていた総務課の担当職員が一通の不審な封筒に気付いた。A4サイズの茶封筒で、「〇〇県庁御中」宛で、切手が貼っておらず、差出人の記載もなかったからである。このため、担当職員は「ちょっと変な手紙ですが・・・」と係長に持参してきた。係長は「なんだろう?」と思って開封したところ、「この庁舎の中に時限爆弾を仕掛けた。爆発時間は今日の午後2時。覚えておけ!」と、大きな(24ポイントの)活字で印刷されたA4の白い紙が一枚入っていた。驚いた係長はすぐに課長補佐に報告した。

課長補佐からこの手紙を渡された総務課長は「単なるいたずらかもしれない」と思ったが、念のため総務部長に報告、部長はルールに従って関連部署とトップに報告した結果、緊急対策本部が密に招集され、この手紙に対してどう対応するか、その「対応方針」を検討。真偽は別として、直ちに警察に通報することにした。

午前10時半ごろ、警察に通報し、午前11時に専門の係官が来て、直ちに全職員と来庁している県民を庁舎外に避難させるよう指示、全面的な庁舎内捜査に入った。役所は混乱なく全職員と来庁の県民を安全な場所に避難させ、この間に役所の関係部署の職員は警察からの事情調査に応じた。正午過ぎ、「不審物は発見できず」「爆発の心配なし」という連絡が警察から入ったため、全職員を職場に戻し、12時半ごろから通常業務に入ることができた。

ところが、警察発表でこの事件を知ったマスコミから、午後1時ごろから一斉に電話取材が入ってきた。このため、本日午後3時から記者クラブで、緊急記者会見をすることになった。

このような状況のもとで、次の課題に取り組んでください。

課題1. 記者会見で、冒頭に記者たちに説明する文書(ステートメントといいます)を作成して下さい(A4で、簡潔に1枚以内で)。

課題2. 想定質問と応答(Q&A)を作成してください。

・記者会見出席者は、①総務部長、②総務部次長、③総務課長、④危機管理課長
⑤司会(広報課長)。 以上の5名です。